

中酪情報 No.584

2019年11月30日発行
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議
編集・発行人：寺田 繁
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
<http://www.dairy.co.jp/>
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

編 集 後 記

近年の酪農技術は多様化しています。飼養方法においては放牧からフリーストール、搾乳方法は手搾りから自動搾乳（ロボット搾乳）、給餌方法は分離給与から混合給与まで、さまざまな酪農技術が混在しています。けれども、飼養頭数、土地条件、労働力などに応じて、どの酪農場も「地に足を付けた経営」を目指しています。

本号で紹介した酪農海外現地実務研修会参加の方々も視察されたそうですが、世界屈指の港湾都市オランダ・ロッテルダムでは、海上に浮かぶ酪農場「フローティング・ファーム」(Floating Farm Rotterdam) が建設され、稼働しています。世界初の試みとなる海上の酪農場では、自家発電エネルギーほか、雨水をろ過した牛の飲水、糞尿の処理・加工など、すべて場内でまかっています。

海上に浮かぶ酪農場の設計者ペーター・ファン・ヴィンガーデン氏は、ハリケーン・サンディがニューヨークを襲い、停電や水害によって流通がマヒし、売り場から新鮮な食料がなくなってしまった状況を忘れられないと言っています。海上酪農場の建設意義は、温暖化による海面上昇や気候変動に適応するためのプロジェクトの一つと言えます。

そう遠くない将来、空中に浮かぶ酪農場で暮らす優雅な牛たちの姿をみる日も訪れるかもしれませんね。